平和・民主・革新の日本をめざす東京の会
東京革新懇mailfaxニュース
2025. 12. 18
№1677
〒170-0005 豊島区南大塚2-33-10 東京労働会館5階
TEL. 03-3947-7901 X03-3947-7902
E-mail tokyo@t-kakushinkon.org
ホームページ「東京革新懇」
部内資料

中野区革新懇 中西新太郎横浜市大名誉教授講演会
「若い人は政治転換に何を期待したのか」

11月30日、当日は快晴に恵まれた一日となり、中野革新懇主催の講演会は50人を超える参加者の中で、中西新太郎横浜市立大学名誉教授の講演が始まりました。

開口一番「『若い人・若者』とは年齢的にどういう人であるか?」「年齢的な定義は明確にはなく漠然としている。法律や統計によって様々で統計調査では15歳から34歳、又は15歳から39歳を「若年層」とすることがある。社会的な感覚によっても異なる」とされました。

その「若年層」に対し、今「貧困化」の波が重くのしかかっている。安倍政権が推し進め、その後の首相たちも同様に踏襲してきた「日本型新自由主義社会」によって、「若者の貧困化」の進行が社会生活の全体を覆うまでに深刻化していることを強く指摘されました。中西さんは、とりわけ「アテンション・ポリティクス」(下記注)が、政治的舞台を拡げ政治的関心を触発することにも注意を払うべきと強調されました。

また「若者の保守化」と言われているが、これは「政治的な保守化」ではなく「生活保守主義」とみるべきではないかと話されました。ギリギリに追い詰められた現在の生活がこれ以上破壊されたくない、何とかして守りたい思いを表す「保守=現状維持」と説明され、これらが今の生活を壊そうとする力(新自由主義政治)に抵抗する基盤ともなり得ると話されました。

資料には、多くの統計をグラフ加工化し、話しはとても分かりやすく感じました

「質疑応答」では、数多くの質問・意見が寄せられ、そのすべてについて回答されるのは困難と思われましたが、「私はいつも与えられた時間内にすべてに回答をしております」とし、「宣言」どおり見事に全問回答されるという”離れ業”をご披露されました。

編集部注:アテンションポリティクスは、情報が氾濫する現代社会において、特に政治やメディアが人々の注意を引くために用いる手法を指す。情報の選択が難しくなり、注意が分散する中で、特定のメッセージやイメージが強調されることが多くなっている。これは、政治家や政党が有権者の関心を引くために、感情的な訴えやキャッチフレーズを使用することを含む。

第31回小金井市民アクション60人で展開
漢人都議、森戸市議など多彩な訴え、松平さんのトランペット、三多摩青年合唱団のうたごえなどアピール
市民の反応が広がる

12月14日開催の第31回小金井反戦アクションは、午前中の冷たい雨にもかかわらず、多くの市民がかけつけました。高市政権の本性が次々明らかになり、国民の間では戦争への不安が急速に高まってきています。署名を活用した対話運動の中で、市民の間にも高市政権の危うさを感じている人が多くなっていることを実感しました。また、マスコミに対しても、真実の報道を避けているその報道姿勢に、市民が疑問を持ち始めているようです。国民の高市政権に対する怒りは、今、まさに燎原の火となって広がり始めようとしています。

【2面につづく】

オープニングは松平さんのトランペット。三多摩青年合唱団の反戦と平和の歌声も響きました。

森戸市議（共産党）：今、医療と福祉の現場が資金不足で大変なことになっています。軍事費を増やすのではなく国民の命と暮らしを守るために私達の税金を使ってほしい。

田頭元市議：高市政権の支持率が高いと言われています。しかし私達には、今何が起きているのか、その情報が伝わってきません。マスコミも、どこまで真実を掘り下げ伝えているのでしょう。とても怖いものを感じます。

漢人都議：自民と維新によって身を切る改革と称し国会議員の定数を１割減らされようとしています。私は都議会議員をやっていますが、その支えになっているのは市民の声です。その声が反映されなくなる議会なんてありえません。

中村さん（民青）：あの大平戦争の前夜のような情勢になっています。二度と再び若者が戦争にかり出され犠牲になることがないよう、今、若者も立ち上がっています。

署名（20 筆）とともに寄せられた市民の声

○「高市氏の言動は今までの中国との関係を無視している。戦争へとけしかけている」（中年男性）
○「物価高なので税金の使い方を考えてほしい」（高齢女性）
○「詳しくは言いたくないが、高市氏は政治の場からきえてほしい」（40 代男性）
○「今の政治はおかしいと思って、１ヶ月前に民青に入って毎週１回の勉強会で、少しずつ何でおかしいか、わかってきた」（若い男女）
○「こいつら（子ども二人）を、戦争に行かせたくないから署名します」（若い父親）
○「高市になって戦争しかけているようで怖さを感じる。国債の発行で円安。日本はおかしくなる」（男性）
○「マスコミがよくないですね」「今、本当にひどいですね」「署名したいけど未成年なので無理」など。